

令和 8 年度 第 1 回霧島市高齢者施策委員会 会議要旨

日時	令和 8 年 8 月 6 日（木） 15：00～17：20
場所	国分シビックセンター 別館 4 階 大会議室
出席者	【委 員】出席者 13 名、欠席者 2 名 浮邊委員長、石原副委員長、佐藤委員、山崎委員、神田委員、本村委員、黒岩委員、玉城委員、堀之内委員、久徳委員、郡山委員、八田委員、住吉委員 （欠席者：磯脇委員、宮原委員） 【事務局】 （保健福祉部）宮田部長、種子島次長 （長寿介護課）富田課長 （長寿福祉グループ）竹下主幹、渡邊サブリーダー、満尾主事 （介護保険グループ）向吉主幹、窪田サブリーダー、下楠蘭主査 （霧島市地域包括支援センター） 牛牧所長、山口副所長、福田副所長 （霧島市社会福祉協議会）西地域福祉課長、崎山生活支援コーディネーター （委託事業者）株式会社くまもと健康支援研究所 開田地域マネジメント企画室長
会次第	1 開会 2 委員長あいさつ 3 保健福祉部長あいさつ 4 協 議 （1）第 10 期高齢者福祉計画・第 9 期介護保険事業計画の進捗状況について （2）第 11 期高齢者福祉計画・第 10 期介護保険事業計画・認知症施策推進計画について （3）霧島市地域包括支援センター事業計画等について （4）生活支援体制整備事業について 5 その他 6 閉 会
【会議要旨】 4 協議 （1）第 10 期高齢者福祉計画・第 9 期介護保険事業計画の進捗状況について 【事務局】 資料 1-1 に基づき、令和 7 年度の地域支援事業（介護予防・日常生活支援総合事業、在宅医療・介護連携推進事業、認知症施策、生活支援体制整備事業等）等の実施状況を説明。 また、資料 1-2 に基づき、第 1 号被保険者数と要介護認定者数の過去 3 か年の推移や、介護保険事業所の設置数、令和 7 年度の介護保険事業計画と実績の比較（利用者数及び給付費）等について説明。 （1）について質疑 【委員】 地域リハビリテーション活動支援事業について、目標に届いていないが、リハビリテーション専門職は足りているか。	

【事務局】

他の業務と兼務しながらの派遣となっていることもあり、目標には届いていない状況である。

【委員】

まちかど介護相談所等について、今後の方向性はあるか。

【事務局】

霧島市地域包括ケア・ライフサポートワーカー（以下「LSW」という。）の養成とリンクしており、今後、養成者数を増やしていく方針であるため、まちかど介護相談所等についても増加していくと考えている。

【委員】

鹿児島県の地域医療介護総合確保基金を活用した取り組みは今年度行っているか。

【事務局】

看護小規模多機能型居宅介護支援事業所の整備に活用する予定としている。

【委員】

まちかど介護相談所等や LSW が 0 件（人）となっている地区は、他の地区の LSW や地域包括支援センター等がカバーしているのか。認知症カフェ等が充実してきているが、認知症初期集中支援チームの昨年度実績を教えていただきたい。あわせて、在宅医療・介護連携推進事業とまちかど介護相談所等設置事業の連携はあるか。

【事務局】

認知症初期集中支援チームの実績については、資料 3 の 8 ページに記載しているとおりである。在宅医療・介護連携推進事業とまちかど介護相談所等設置事業の連携については、今後、協議していきたい。

【委員】

LSW が 0 人の地区で養成できる可能性はあるか。

【事務局】

LSW の設置事業の受託者と協議を行いながら、検討したい。

【委員】

難聴対策について、聴覚系はバランス感覚にも関係があるという文献もあるので、言語聴覚士だけではなく、作業療法士、理学療法士等とも連携して施策の検討をお願いしたい。

【委員】

地域密着型サービスについて、計画と実績に 1 割ほど差があるが、どのように分析し、次期計画にどのように反映していくか。また、基金の活用について、今後どのようにしていくのか。

【事務局】

計画値については、3 年前の状況等から自然体推計を行い、その推計に各種調査を基に市の独自施策を反映して作成している。不用額の要因としては、通所系サービスがコロナ前の水準に戻ると見込んでいたものの実績として戻っていないこと等があげられる。次の計画に向けては、今回の事業所調査等の結果や決算見込み等から検討していきたい。

【委員】

訪問介護について、計画では右肩上がりで見込んでいたが、実績が減少していることについて、その要因をどのように分析しているか。

【事務局】

3 年前に実施した調査から、訪問介護については不足しているの見込んで、手が拳がった場合に認められるように計画したが、報酬改定や事業所の撤退等に伴い、減少している。国の制度改正で包括報酬につい

ての検討もなされていることから、情報収集しながら進めていきたい。

(2) 第11期高齢者福祉計画・第10期介護保険事業計画・認知症施策推進計画について

【事務局】

資料2-1に基づき、次期計画策定に係る背景や国の基本指針及び各種調査やワーキング会議の実施状況等を説明。また、資料2-2に基づき、人口・要介護等認定者の推移及び介護給付の状況等について説明。

(2) について質疑

【委員】

隼人南圏域は、高齢者人口の増加が見込まれるが、今後、どのようにサービス提供体制を確保するのか、あるいは、圏域を越えたサービス提供に対する支援をどのように想定しているのか。

【事務局】

本市の場合、サービス供給のピークは2050年頃と見込まれており、その後は減少に転じるため、バランスを見て、今後、圏域ごとに見るべきサービスなのか、広域で見るべきサービスか等を検討しながら進めていきたい。

【委員】

人口推計には外国人も含まれるのか。

【事務局】

本市に住民票がある方は、外国人も含まれている。

【委員】

今後の将来推計を見ると、医療構想と連携した圏域の見直しなど柔軟な対応を検討するタイミングにきている可能性がある。一方で、圏域を超えたサービス利用の必要性について、関係者や住民に理解してもらうような取組が必要と考える。ワーキング会議のまとめについては非常に分かりやすく整理されており、今後はこれを圏域ごとにどのような施策に反映していくのかが重要と考える。

【委員】

圏域を越えたサービス提供について、行政としても柔軟な考えが必要である。

【委員】

本市の実情に応じて、独自の柔軟な支援を検討してほしい。

(3) 霧島市地域包括支援センター事業計画等について

【事務局】

資料3に基づき、令和7年度の事業実績及び令和8年度の事業計画について説明。

(3) について質疑

【委員】

スキルアップ研修の子どもたちとの取り組みを行うことになった経緯を教えてください。

【事務局】

高齢者支援を行うなかで、子ども世代と関わるのが非常に増えてきている。そうした中で、複合的な課題を抱えた世帯との関わりを勉強したいという経緯で研修を実施した。

【委員】

様々な産業で人材不足であると思うが、地域包括支援センターの状況はどうか。

【事務局】

人材不足だと認識している。対策は考えていくが、難しいところである。

（４）生活支援体制整備事業について

【事務局】

資料４に基づき、令和７年度の事業実績及び令和８年度の事業計画について説明。

（４）について質疑

【委員】

昨年の豪雨災害について、事業所と市などで一緒に振り返りの場があればありがたい。

【委員】

住民参加型福祉サービス推進事業について、補助金があるのか、立ち上がる一番の要因は何か。

【事務局】

団体ごとに３万円の補助金を交付している。立ち上げにあたっては社協に相談があり、そこから支援をしているところである。